



フレンズ

山梨県立かえで支援学校相談・支援通信第59号 平成27年6月24日発行

※「フレンズ」は、かえで支援学校の校歌(杉本竜一氏作)です。本校HPにてお聴きください。

幼稚園・保育園での相談の様子から

＜保育園の保護者向けに作った資料です。御活用ください。＞

発達障害、多動、ADHD、自閉症等の言葉を日常生活の中でもよく耳にするようになりました。そのためか、「うちの子も発達障害だろうか。それとも、育て方が悪いのだろうか。」等悩む保護者が多くなっているように感じます。「どう接したらいいかわからない。」という保護者、保育士の相談も増えてきています。

教育相談を通じて感じることは、周りの大人がほんの少しかかわり方を変えるだけで、落ち着く子や社会性が身に付く子供が多いということです。

今回は、お子さんが楽しく生活できるようになるための育児のポイントを、いくつかお伝えしてみたいと思います。

ポイント1

**発達障害かどうかの境目は、
はっきりしません。**

「ここからが発達障害と線引きすることはとても難しいことです。本人の苦手なところの克服ではなく、得意なところを伸ばす支援が必要です。」

本人の得意と苦手を知って、かかわることが大切です。



ポイント2

**信頼できる人を支えに
生活経験を広げましょう。**

「大人と一緒にやったり、大人に相談したりすると良いことがある。」という経験を増やしましょう。



ポイント3

**手や体をたくさん動か
しましょう。**

手や体を使って活動すると脳も成長します。できることが増えると自信がつき、興味関心も広がります。



ポイント4

**「ダメ。」でなく、「〇〇しよう。」と
言いましょう。**

「ダメ」「何回言ったら分かるの」という言葉だけでなく、「〇〇しよう」「〇〇って言うんだよ。」というように適切な行動や正しい言い方を教えてあげましょう。

「座りましょう」

「立たない」



ポイント5

**他人と比較せず、本人
の成長を認めましょう。**

「何歳で何が出来る」という考えに子供をむやみに当てはめるのはやめましょう。

ポイント6 本人と確認しながらルールを決めましょう。

本人がやる気になることが大切です。命令では意欲が育ちません。約束が分かるようになったら、大人が一方的に決めず、本人が納得するようなルールを考えましょう。

ポイント7 ひとりで抱え込まず、相談しましょう。

こだわり、落ち着きのなさ、言葉のおくれ、おむつが取れないなどは、親のしつけや本人のやる気のなさで起こっていることはほとんどありません。本人は何かで困っています。その困っていることを大人が見つけあげて「手伝って」あげることが必要です。相談員は子どもの困っていることを見つけ、周りの大人がどのように手伝ったらいいかをアドバイスします。

保健師、地域療育コーディネーター、特別支援教育コーディネーターなどが相談にのります。